

四條畷市未来教育会議（令和元年度第3回）

議事摘録

四 條 畷 市

1 令和2年3月30日 午後4時 四條畷市役所委員会室において、四條畷市未来教育会議を開催する。

2 出席者

未来教育会議委員長	東 修平
未来教育会議副委員長	植田 篤司
未来教育会議委員	和田 良彦
未来教育会議委員	藤原 由美
未来教育会議委員	白井 智子
未来教育会議委員	中原 健聡
未来教育会議委員	佐々木 千里
未来教育会議委員	二見 真美

3 事務局出席者

教育次長兼教育部長	開 康成	
総合政策部長兼魅力創造室長	藤岡 靖幸	
市民生活部長	山本 良弘	
子ども未来部長兼福祉事務所長	森田 一	
健康福祉部長兼福祉事務所長	松川 順生	
健康福祉部次長兼福祉事務所次長兼保健センター所長		豊留 利永
危機統括監兼総合政策部次長兼秘書政策課長		喜多 計成
教育部次長兼学校教育課長	上井 大介	
教育部上席主幹（教育総務担当）兼学校教育課人権教育・教科指導担当課長		木村 実
教育総務課長	板谷 ひと美	
秘書政策課事務職員	安田 直由	

4 会議録作成者

秘書政策課事務職員	安田 直由
-----------	-------

5 案件

- (1) 次期教育大綱の策定について
- (2) その他

<p>総合政策部長兼魅力創造室長</p>	<p>定刻になりましたので、令和元年度第3回未来教育会議を開催させていただきます。本日は大変お忙しい中、お集りいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日は、中原委員がオンラインでの出席となりますので、宜しくお願いたします。出席されている委員は8人であり、四條畷市未来教育会議規則第3条第2項の規定に基づき、委員の半数以上が出席されていますので、会議が成立することをご報告いたします。</p> <p>本日も、円滑な会議の進行にご協力をお願い申し上げます。</p> <p>また、会議につきましては、録音をさせていただき、会議録を作成いたしますので、お手元にごございますマイクをお使いいただき発言いただけたらと思います。</p> <p>それでは、東委員長よりご挨拶を申し上げます。</p>
<p>東委員長</p>	<p>皆様こんにちは。</p> <p>本日は年度末の大変お忙しいなか、また時節柄、このような大変難しい状況のなか、ご出席を賜り厚くお礼を申し上げます。これまで第1回、第2回と、皆様と協議、会議を重ねてまいりました。その中で、第1回めにお示しをさせていただいてきた形から、少しずつではございますけれども、大きく形が変わり、少しずつですが、明確化してきた部分があるのではないかなというふうに思っています。</p> <p>一つひとつ積み重ねてきた議論がございます。そのうえで、本日は最終の第3回となりますので、理念から、像、そして基本方針に至るまで、一つずつきっちり見ていって、最終的な委員の皆様のご意見もお伺いしながら、一つの形にしていきたいと思いますので、何卒よろしくご協力をお願い申し上げます。</p> <p>よろしくお願いたします。</p>
<p>総合政策部長兼魅力創造室長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは委員長、会議の進行をよろしくお願いたします。</p>
<p>東委員長</p>	<p>それでは、お手元の次第に基づきまして進めてまいります。</p> <p>案件1として、次期教育大綱の策定についてでございますけれども、まず本日の配付資料について事務局から説明をお願いたします。</p>

総合政策部長兼魅力創造室長

それではお手元の資料をご確認ください。

まず、次第が1枚、資料番号が1番から6番までございます。中身につきまして、ご説明させていただきます。

資料番号1でございますが、「第2回未来教育会議での課題・意見の整理表」ということで、前回の会議でいただきました、子ども像、学校像、行政像の望ましい姿についての意見を整理いたしております。こちらの資料は、前回のまとめとなっておりますので、説明は割愛させていただきます。

次に、前回の意見を受け作成いたしました資料番号2の教育大綱たたき台をもとに、先般3月4日に開催いたしました総合教育会議におきまして、これまでの未来教育会議の経過を教育委員の皆様にもご説明させていただいたうえで、教育大綱たたき台の3ページを中心にご議論をしていただきました。その時の教育委員の皆様からいただいた意見を資料番号3といたしまして、まとめてございます。

なお、資料番号が進みますが、資料番号6につきましては、資料番号3にプラスいたしまして、これまでの2回の未来教育会議の資料をあわせたものを取りまとめております。

本日につきましては、資料番号4と資料番号6を参照していただきながら、まずはこのご説明をさせていただきたいと思っておりますので、資料番号4の3ページをごらんください。

まず、これまでの未来教育会議を通しまして、教育現場におきましては、いままでも子どもの個性を活かす取り組みを進めてきておりますが、現状、グレーゾーンと言われる支援が必要な子どもや、自己肯定感が低い子ども、学校になかなか来られない子どもなどが増えてきている状況もあり、従来とは違った学校での取り組みが始まっていることや、文部科学省におきましてもICT技術の進展やネットワーク化が進み、グローバル化がますます加速化していくことを受け、GIGAスクールといった新たな取り組みも進められようとしています。

そのため、今後の教育においては、これらの状況に対応していく必要があるといったご意見をいただいていたところでございます。これらのことを踏まえまして、さまざまな家庭事情を含めた子どもの背景があるなか、子ども一人ひとりの個性を大事にしていくこと、そして、その個性を大事にするためには、子どもに関わるたくさんの人たちが子どもの個性を受け止め、伸ばしていこうとする取り組みが大事であるとの考えで、基本理念を検討いたしております。

このことから、説明文にも書いていますとおり、子どもたち一人

総合政策部長兼魅力創造室長

ひとりには、個性が活きる分野、得意が発揮される分野が必ずあり、そうした個性を、家庭や学校はいうまでもなく、地域や事業者等を含めた複数の主体で、活かし、伸ばしていきたいという想いを込めて、本市の教育に対する普遍的な理念を「個性をみんなで活かすまち」といたしております。なお、この考え方については、本市の特徴的なものになっているのではないかと考えております。

次に、4ページのめざす教育像としての1番め、めざす子ども像につきましては、先ほどの理念を受け、子どもたちそれぞれが個性を発揮できることで、自分の可能性を信じ、自己肯定感を高め、責任のある行動や、困難を乗り越える力が育まれると考えますことから、子どもたちがそれぞれの個性を発揮できている、としております。

次に2番めのめざす教員像につきましては、未来教育会議でも、教員が子どもを複数の目で観察し、子ども理解に努めることが大事では、とのご意見をいただいていたことから、説明文といたしまして、子どもたちそれぞれの個性が発揮できるようにするには、一人ひとりをしっかりと観察し、その個性を把握、分析することが重要と考え、教職員が一丸となって子ども理解に注力している、としております。

次に、3番めのめざす学校像につきましては、学校として地域との関わりが必要、また、労働につきましても、社会が求めるものが従来から変わってきており、そのような面からも様々な主体との連携が必要とのご意見を踏まえまして、説明文として、さまざまな生き方の理解には、開かれた教育の観点から、家庭、学校、地域のみならず、商工会など、その他様々な主体が連携して子どもたちを支えていくことが重要と考え、各主体が連携して子どもたちを支えている、としております。

5ページにお進みいただき、基本方針についてご説明を申し上げます。まず1番めとして、子どもが自己肯定感を上げていくことが大事であり、そのためには自主的に何かに取り組む気持ちが大事である。これからの教育は与えられるのを受け身で待つのではなく、気付く力を養う必要がある、といった議論を受け、説明文として、子ども自らがさまざまなことに興味をもち、挑戦したいと思えるような主体性を伸ばす教育に取り組むとして、方針1を気付く力を伸ばす教育としております。

次に2番めでございますが、これも子どもの観察が大事といったご意見や子どもみんなが習熟度に差があっても、自己肯定感をもって学校にいるために、ICTなどの技術で補完するといったことも

<p>総合政策部長兼魅力創造室長</p>	<p>一つの手法ではないかといった意見もあり、説明文では、ICTなど教育環境を整備し、子ども一人ひとりの学習到達度や発達状況、不登校といった様々なケースに対応した教育に取り組むとして、方針2を個別最適化された教育としております。</p> <p>次に3番めですが、これにつきましては、今後の学校の在り方としてさまざまなご意見をいただけてきたところです。特に、子どもの観察を通して子ども理解が必要で、それも複数の教員で見守ることや情報共有、さらに教員の働き方改革の必要性、先生の個別の能力や質によらずに、システムとして機能すべきなどの意見があったと思います。</p> <p>それらを踏まえて、説明文では、教職員が、組織として一丸となって子ども理解に注力できるよう、働き方改革に取り組むとして方針3をチーム学校の構築としております。</p> <p>次に4番めですが、保護者への関り、特に子育てに困難を抱える家庭に対して、学校だけでなく、福祉部局との連携が重要であり、そのためには個人情報取り扱いのルールやシステム化など、行政部局との関わりが必要とのご意見を踏まえまして、説明文では、支援が必要な子どもなど、家庭環境も複雑かつ多様化しており、また、不登校や学校卒業後の引きこもりなどに対して、教育委員会と市長部局がより連携して対策を行う体制を整えるとして、方針4を教育と福祉の連携としております。</p> <p>最後に5番めですが、学校と地域の関わり、また、今後、社会に出て活躍するときの労働といった側面を見直し、説明文では、学校が、子どもたちの居場所作りや、子どもたちを見守る環境、あるいは生涯学習の場でもあるよう、本市の良さである思いやりのある“おせっかい”の心で子どもたちを育むという地域性が活きるような環境作りに取り組むとし、方針5を地域のおせっかいが活きる場作りとしております。</p> <p>なお、6ページには体系図としてまとめております。</p> <p>資料番号5につきましては、本日の会議において各委員からの事前のご意見について、とりまとめたものとなっております。</p> <p>以上、資料の説明とさせていただきます。</p>
<p>東委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>委員の皆様におかれましては事前に資料をご確認いただき、貴重なご意見をいただいております。ありがとうございます。</p> <p>まず、今日の会議の進め方ですけれども、最終ということでもございますので、全般に議論が同時にわたると、いろいろ情報が錯綜</p>

東委員長	<p>しますので、理念から順に教育像、そして方針という一つひとつ区切った形で、皆さんと意見を共有させていただきつつ、固めていけたらと思っております。</p> <p>まずは資料番号4の四條畷市教育大綱素案（案）の3ページ、基本理念から進ませていただければと思います。こちらにつきましては、資料番号5にもありますとおり、事前の意見という形では、特段の言及はございませんでした。</p> <p>また、資料番号6でこれまでの意見整理表からの意見もまとめさせていただきつつ、現在の、個性をみんなで活かすまちとさせていただきます。</p> <p>こちらの下イメージ図につきましては、職員でイラスト等、得意な者がおられて、それぞれ細かく見ていただくと分かるのですが、仕事っぽいことをやっていたり、車椅子バスケットで盛り上がっていたりとか、料理をやっていたりとか、いろいろな個性が活かしているまちというところを絵として付けてくれているという状況になっています。</p> <p>こうしたものを踏まえて、特段、まずご意見あればいただきたいなと思っておりますし、なければ、この部分はこちらの方で固めさせていただいて、次の議論に進めればと思うのですが、この基本理念の部分について何か補足であったり、追加で何かあればお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">（意見なし）</p>
東委員長	<p>こちらについては個性をみんなで活かすまちで、いったん固めさせていただいて、次のめざす教育像のところに移らせていただきたいなと思います。</p> <p>資料番号5にございますとおり、それぞれについて、事前にご意見いただいております。文書でもまとめさせていただいているのですが、せつかくですので、まず（1）のめざす子ども像につきまして、二見委員、和田委員からいただいております。もしよろしければ、それぞれ補足等も踏まえて、改めてお示しいただければと思うのですが、二見委員からいかがでしょうか。</p>
二見委員	<p>ここに記載されているとおり、これ自体が悪いということでは全くありません。ただ、個性を活かすとか発揮するという文言について、個性という言葉調べると「特性」ということなので、即してはいると思うのですが、どうしても得意なところを発揮できるよう</p>

二見委員	<p>にというような、特に教育場面なんかではよく使われがちとか、個性を発揮しようといったら、その子の中で得意なことをどんどん伸ばしてあげようというような意味合いの方に読み取れるようなところがあるなと思いました。</p> <p>それ自体はもちろん悪いことではないですけども、ここに記載のように、得意なところを延ばすというところだけではなくて、もっと根本的に、自分のことを大切にするとか、自己を肯定するというようなことを、伝えていきたい。中身として自己肯定感を高めると記載はされていますが、これでは不十分というか、なんか「ちょっと付け足した」みたいな印象を受ける可能性も否定できないなと思いました。もう少し自分を大切に思うというような土台の部分と、さらにその個性、その人特有のものをしっかりと発揮できるという両方の意味が、見出しにあれば、より良いのではないかなと思いました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この個性、それぞれの児童、生徒の特有のものを活かしたり、発揮するという前提には、自分自身を大切にするとか、そういうものがあって、初めて次に移れるのではないかというご意見をいただいたと思っております。</p> <p>和田委員もよろしいでしょうか。</p>
和田委員	<p>私は個性が発揮できるということについて、すごく良いことだと思うのですが、基本理念の中で、例えば個性をみんなで活かすという言葉があると思うんです。</p> <p>ということは、それぞれの個性をお互いに大事にしていくという視点が、子どものなかにも必要ではないかなということを考えているのが一つ、そのために、互いに認めることができるという言葉を入れさせていただいたらどうかという提案です。</p> <p>あと、これからの時代はグローバル化というような話がありますが、グローバル化ということは、結局は多文化共生、いろんな立場の方と手をつなぎながら生きていくということだと思うので、そういう意味でも、互いに認めることができるという、そういう言葉は、これでないと駄目だってことではないんですけど、そういう、ニュアンスが、やはりほしいなということでこういう提案をさせていただきます。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p>

東委員長	<p>おそらく他者を認めることができるというのは、結局自分自身も大切にできないとできないということですので、違う角度のようでおそらくリンクしているということをおっしゃっていただいているのかと私としては受けとめております。</p> <p>いま、両委員からご意見をいただいたのですが、別の視点等、めざす子ども像についてご意見であったり、補足も含めて、あれば各委員からいただきたいなと思うのですが、ございますでしょうか。</p>
白井委員	<p>すごく細かいことなのですいません。多分ちょっといろんなことを盛り込むことで、日本語として難しくなっちゃったのかなというところがあって、一つはその責任のある行動を取る力などを入れないと、意味が通らないのかなと思うところと、あと、先生方おっしゃっているように、やっぱり、自己肯定感というのは、こういうすべての要素があいまって自己肯定感が高まるということだと思うので、この中で並列にとらえるよりは、これはやっぱり取り出した方が、表現としてもしやすいのではないかなと思いました。細かいところです。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ここに並列に並ぶ要素としてよりも、より上位の概念であるというようなことですね。佐々木委員からもいいですか。</p>
佐々木委員	<p>ニュアンス的に言うと、二見委員と和田委員がおっしゃったとおりにですが、子どもたちの話を聞くと、自分には良いところがないとか、個性がないと思込んでいる子もいるわけです。</p> <p>そのことを含めると、自分は自分であり、これで良いんだっていう「I' m okay」というところがあって、初めて、他者もOK、私もOKと認めることができる。そのうえで、他者と私の違いのなかで、私の得意なのはここ、苦手なところはここだけど、私の苦手なところは、Aちゃんが得意というようなニュアンスのことを皆さんが言っておられるのだと思います。</p> <p>ただ、そのニュアンスは非常に重要な部分かなと思います。みんな違ってみんな良いという部分だと思うのですが、それをどういうふうにコンパクトな、でもすごく重要な基盤になる言葉として入れるのかということが、基本理念から繋がってくる大綱の価値を左右する部分だと思っております。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p>

東委員長	<p>4名の委員の方からいただいた点を踏まえますと、基本理念に、すでに個性を活かすという部分は出ておりますので、この「めざす子ども像」の見出し部分については、むしろ、自分であったり、他者を認められるんだという要素が入っている方が、もしかしたら全体として繋がってくるのかなと思ったのですが、中原委員や藤原委員から、何か意見がございましたらお願いいたします。</p>
藤原委員	<p>この四角の中に書いてある言葉について、私は短かったら短いほどわかりやすく良いと思っています。発揮という言葉の定義をどうするかということなのですが、自分が発揮することのなかに、他者を認めることに繋がる部分もあると思います。</p> <p>この四角枠中をシンプルにして、先ほど出たご意見のなかの他者を認めるとか、自己肯定感を上位という位置づけにし、下の説明文に日本語を整理して入れる方が、市民に分かりやすいのかなという気がしました。</p>
東委員長	<p>藤原委員がおっしゃるとおり、我々も整理していくなかで、見出しをいかにシンプルにするかということは、未来教育会議の最初の頃は長かったものですから、短くシンプルにというご意見を踏まえて、シンプルにしてきた経過はございます。</p> <p>中原委員は何かございますか。</p>
中原委員	<p>私自身は以前の会議のなかで、子ども像については、決めつけるような形は良くないという意見を出させていただきました。</p> <p>今回、出てきている内容は、特定の子ども像だけをめざすという書き方にはなされていなかったもので、特に違和感はありませんでしたが、先ほど和田委員がおっしゃったような、お互いに認め合うという要素を入れることも更に重要だと思いました。また、総合教育会議の議事録にも書かれていた、先生方、保護者、地域の方がわかりやすくするという意見も重要だと感じました。見出しは、できるだけシンプルなもので、特定の子ども像を決めつけないということが重要だと思いますので、意見とさせていただきます。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>副委員長の方からお願いします。</p>
植田副委員長	<p>それでは先般の総合教育会議で出された意見を要約しますと、お手元の資料にありますように、基本的には同じで、まず自分を大切</p>

植田副委員長	すると同時に他者を大切にする。さらに時間軸を導入し、未来の自分も大切にするという視点をとり入れてはどうかという意見がありました。
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いろいろなご意見をいただきました。ここで、すべてを精査していくと、めざす教育像で今日の会議が終わってしまう可能性もありますので、いったん整理をさせていただきますと、二見委員からいただきましたとおり、まず自分を大切にしていくという考え方は、総合教育会議でも、教育委員の皆さんからいただいています。</p> <p>そのうえで、和田委員からございましたように、他者も認めることができるという考え方。ただし、中原委員や藤原委員からございましたように、できるだけシンプルに市民の皆さんにも伝わりやすくしていく。</p> <p>この三つを両立させていく文言について、いまここで考えると、かなり時間がかかりそうなので、その要素を踏まえて預からせていただいて、最終的には皆さんに共有させていただきます。それら三点が満たされるように、我々で整理させていただいたうえで、皆さんにお示しさせていただく方向性で、もしよろしければ進めさせていただきます。</p> <p>他の観点があれば、ご意見をいただきたいのですが、ございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
東委員長	<p>よろしいですかね。</p> <p>あとは我々で、整理をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>続きまして2番の「めざす教員像」ですが、ここはすでに和田委員のほうから「めざす教職員像」にすると訂正をいただいているのですけれども、このめざす教職員像のところにつきましても、資料番号5のとおり、三名の委員からご意見をいただいております。</p> <p>まず、二見委員からよろしいでしょうか。</p>
二見委員	<p>この記載どおりなのですが、「一丸となって」という言葉が引っかかっています。皆さんも書かれているので、私と同じ気持ちだと思いました。調べてみた結果「一丸となって」という言葉が一番則していることは理解しました。しっかり、調べたうえで書かれてい</p>

二見委員	<p>るのだと分かりました。</p> <p>しかし、どうしても中原委員が書かれているように、個性について書かれているかと思えば、一丸となってということも書かれているので、ちょっと違和感があったのと、でも同じ方向性を見て、子どもがより良く育つために、みんなが足並みを揃えるということが言いたいのだということは分かるのですが、もうちょっと、文言で何かないかなという意見です。</p> <p>みんなで一緒にしなければならないというようなニュアンスにもとられかねません。言葉の意味を調べると、そうではないとわかるのですが、一般市民の方が見ても、みんなで一丸となってしなければならないというような印象を持つのではないかと思います。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>めざす子ども像がこのような像である分、余計に際立つような形になっているのだと思うのですが、いまのご意見は、おそらく中原委員のご意見に近いので、先に中原委員から、ご意見をいただいてもよろしいでしょうか。</p>
中原委員	<p>いま二見委員がおっしゃられたように、一丸という部分の文言については、学校現場の先生方の目線で考えると、窮屈に感じるのではないかと思います。</p> <p>例えば、先生にも一人ひとりの意見があるなかで、意見が違ったときに、保護者の方や地域の方から一丸になっていないということと言われる場合も想定されます。</p> <p>そうすると、先生方もそれぞれのアイデンティティを持って教師ができないという、非常に勿体ない状況になりかねません。</p> <p>めざす教職員像を考えたとき、その教職員像をめざしたいと思えて、教職員が誇りを持てるようなメッセージのあり方が良いのではないかという思いで、書かせていただきました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。先生一人ひとりにも個性があるのだということだと思います。和田委員からもよろしいですか。</p>
和田委員	<p>私の意見は、子ども理解は非常に大事なことで、すべての先生方がしなければならないことですが、それだけでは不十分だという気持ちがあって、書かせていただきました。</p> <p>学校には様々な個性のある子どもたちがいるのですが、やっぱり集団ということがありますので、子どもたちの繋がりをつくるとい</p>

<p>和田委員</p>	<p>う趣旨を持っているんです。そういうことに先生も力を入れてほしいと思います。子どもたちを理解し、それぞれの個性を認めた上で、さらに繋がりをつくっていく。ここまでが、先生の仕事だという気がしますので、私は集団づくりという言葉を入れました。古い言葉だと思いながら、何か良い言葉が思い浮かびませんでしたので、表現はお任せします。</p> <p>もし、見出しに入らなければ、子どもたちの繋がりをつくっていくという趣旨を文章の中に入れていただけたら、先生方の仕事として、浮かんでくるのではないかと思います。</p>
<p>東委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>先ほどの互いに認め合うことができるというご意見とリンクしつつ、それによって集団と繋がっていくというようなこととリンクしていると思いました。</p> <p>いま3名の委員の方から、一丸という言葉が少し馴染まないのではないかということ、より先生たちが頑張ろうと思えるような文言のほうがいいのではないかということと、集団づくりの観点も必要ではないかというご意見をいただきました。</p> <p>他の委員の方から、補足や別の観点があれば、ご意見をいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>事前に意見を出さなくてすみません。ここでお話を聴きながら考えると、とても充実します。まず一丸という言葉はちょっと怖い感じがするので、代わりとして、インパクトとしては弱い印象になりますが、一致団結という文言の方がやさしい感じがします。</p> <p>先ほどのめざす子ども像と同様で、後でいろいろと考えていただきたいと思うのですが、私が伝えたいのは、まず、教員同士が支え合っていない状況はないのか、ということです。教員同士が支え合わなかったら、子どもを支えることはできません。ですので、それを一致団結ということばに被せたいのです。例えば教職員が支え合って一致団結、若しくは一致団結しながら支え合う、支えあい一致団結というような言葉。ちょっと長くなってしまいますけれども、あるいは説明のなかにでも入ってきた方がいいのかもしれない。</p> <p>先ほどの和田委員のご意見と反対の意見になってしまいますが、どうしても私たちは、子どもの個別化というところが、仕事の中心になってきます。一方、学校は常に集団を見なければならぬので、個別の子どもというところに焦点をあてることで、「個」が見</p>

佐々木委員	<p>えやすくなるという状況があります。実際、先生たちは、「集団づくり」というところについては、意識が浸透されている感じがしません。そういう意識を強みとして、「Aさんはこういう個性があって、こういう良いところがあって、でも、このようなことで困っている。Bさんは・・・」と個々の子どもたちをしっかりと理解していけば、「個々の強みを活かしながら子ども同士の繋がりができるように工夫したら、それぞれにとって良い状況になって、もっと良いクラス運営ができるのではないか」という発想を先生たちはされると思います。</p> <p>しかし、教師一人ひとりが一人ひとりの子どもをしっかりと理解することができたとしても、「学校でお預かりしている子どもたちなのだから、1人で頑張らないで、みんなで個々の子どもを理解して協力していきましょう」という支え合いの状況が教師集団のなかに生まれないと、この教育大綱でめざしている子ども像が実現しないのかなと思いました。</p>
東委員長	<p>みんなで子どもへの理解を一丸となってしまうということならば、ニュアンスが少し変わってくるのかもしれないですし、おっしゃっていただいたように教員同士が支え合うという観点は、おそらくこの文言からはあまり読み取れないというところはございますので、そのような観点も、確かにあるなと思いました。</p> <p>よろしければ白井委員からご意見をお願いいたします。</p>
白井委員	<p>皆さん、同じ箇所につかかったのだと思って心強かったです。この内容については、前回、議論をたくさんしていただいて、地方都市としてかなり進んだ内容、一步踏み込んだ内容だと思います。本当は両論併記で実施したいところ、あえてバツサリと切り取っているところが、すごく良い方向性だと思うので、そうすると、やっぱり一丸という昭和な感じの香りのする言葉が逆に目立ってしまうと思います。</p> <p>難しいのですが、私は、その代わりに自分のスクールの教員のことを説明する際に使う言葉は、「チームとして動いています」という言葉です。支え合うというようなニュアンスも含んでいると思いますが、そうすると今度は、カタカナをあまり使用するなということと言われるかもしれないので、すごく難しいと思いますが、やっぱりこの文言は、少し工夫した方が良いと感じました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p>

東委員長	<p>次の基本方針3でチーム学校が出てくるのですけれども、実は中原委員からの事前意見で、チームも少し古いというようなご指摘も既にいただいております、本当に各委員がおっしゃっていただいているニュアンスも、凄く良くわかりますし、むしろ、良いワードがあれば、ここ初で何か作れば一番だと思いますが、今年度の流行語を見てもワンチームですから、そういう趣旨なのですけれども、おそらく一丸という言葉が強いのかと思います。</p>
藤原委員	<p>いま現実的に一丸になっていない状況もあるため、あえてこのワードを入れられたのだと思います。私に代わりの言葉が出せるかと言われたら出せないのですけれども、事務局の方には申し訳ありませんが、文言を検討していただきたいと思います。委員長がおっしゃるように新しい文言になるかもしれません。</p> <p>私も小中学校の先生とは、あまりお話しする機会がないのですが、高等学校の先生とお話をし、出来ていない方が現実的にいらっしゃると思いました。先生の影響力は大きいので、その先生1人がたくさんの生徒に影響を与えてしまいます。多分、この案をつくった方は、あえてこの文言を入れられたと思うので、言葉的には昭和ですが、その趣旨をすごい尊重してほしいと思います。</p> <p>私は、逆にあえて書いてあっても良いかと思いました。</p>
植田副委員長	<p>どちらかと言えば、一丸イコール同じ考え、同じ方向ととらえられる傾向にあり、それよりは、あえてカタカナを使うのですけれども、システムティックという意味合いの方が近いと思います。ただそれぞれの先生が一番得意な分野を活かしながら、それらが有機的に繋がっているからうまく対応できるということでしょう。私も代案がなく申し上げてすみません。カタカナですけど、システムティックが一番近いのかなというのは、今うなずいていただいております。</p>
東委員長	<p>実はシステムティックを日本語訳にすると、より冷たいイメージになってしまうのが非常に苦しいなと思います。教育長おっしゃっていただいたとおり、全員の先生が同じ考え、同じ方向という意味ではなくて、東になってそれぞれの個性を活かして一丸となつてという意味なので、最初、二見委員におっしゃっていただいたとおり、1番短くてニュアンスを汲むとしたら、この言葉になってしまうのですが、白井委員がおっしゃっていただいたとおり、受ける印象というのはどうしてもありますので、どうしても一丸というとな</p>

東委員長	<p>員が何か同じというような印象が強いので、これは事務局が相当整理すべき点が増えてしまうのかなとは思いつつ、もう1点、この未来教育会議が私としては素晴らしいな、良いなと思っている点は、やっぱり8人、特に来ていただいている6人の委員さんそれぞれ違う考えを持たれていて、よく意見自体が別の方向軸を向くときがあるので、ここについてはもうちょっとだけ議論をしたいのですけれど、和田委員からはそういう繋がりという部分で集団づくりというところのご意見をいただいて、逆に佐々木委員からは個として見ていくというところが、結果として集団づくりに繋がるんだと。</p> <p>これは、根本のこのメインメッセージに関わってくるところなので、もう少し議論したいなと思うのですけれども、何かこの点について他の委員の方でご意見があれば。</p>
二見委員	<p>集団づくりというのは、いま、学校現場にいてとても大事だと思っているんです。集団づくりという言葉が古いかどうかはちょっと置いていて、集団でうまくできる子どもがすごく少なくなっていると思うからです。</p> <p>こういう言い方するとあれですけども、先生方でもやっぱり集団づくりが上手な先生と、もう少し頑張っていただけたらいいなという先生といらっしゃって、いま、佐々木委員がおっしゃっていた1人ひとりを見て、繋いでいくことで、集団づくりに入っていくことなのかなと理解しています。これは結局同じことというか、1人ひとりを大事にすることも集団をつくることも、1人ひとりを見ないと集団はつくれないし、集団ばかり見ていると1人ひとりを取りこぼすということがあるので、本当に上手な人は両方きっちりやっておられるということ踏まえると、その両方の意味がちゃんと入っていると誰もが見て分かるような文言を作れば、意味としてはいいんじゃないかなと。建設的な意見じゃなくてすみません。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他の委員から、もし、この点ございましたらご意見等お願いします。</p>
中原委員	<p>いま、二見委員からあったように、メッセージとしては両方ともズレているわけではないと思います。例えば、集団づくりを、規律に置き換えて言葉で捉えたときに、学校の先生の管理のもと、他律による規律のようなイメージが良くなく、変えていく点だと思います。</p>

<p>中原委員</p>	<p>自律による規律は学びの共同体を構成する上で重要な要素だと思いますので、1人ひとりの自律による規律が発生するということが、先ほどの、個から発生する集団づくりと私は捉えています。ここでの議論というのは、言わば自律から形成される規律の方だと思うので、そのイメージを、見出しで伝えられたらいいと感じました。</p>
<p>東委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>「discipline」の意味の規律ですね。規律があるというのが、誰かから言われて規律がある状態ではなくて、それぞれの自律した形で規律が生まれているというようなニュアンスですね。</p>
<p>白井委員</p>	<p>やっぱりその一丸となってといっても、実はシステムティックっていうふうな意味だったりとか、集団づくりというのも、お母さんたちと話していると、すごく集団を作るのがうまい先生というのは、やたら盛り上げて、特に入りづらい子どもたちに関してはあんまり対応が上手じゃないっていうイメージなんですね。そこはちょっと離れているイメージで、逆に、すごいこの先生は1人ひとりをよく見てくれるけれども、あんまりクラスをまとめるのは上手じゃないよねというような感じだったりとか、でも実は、いまおっしゃっていただいたように、それが繋がっていること、本当にその上手な先生というか、子ども理解ができている先生というのは、どちらもできているということだと思うので、そこはうまく表現の中に、埋め込めたらと。</p>
<p>東委員長</p>	<p>これはたぶん藤原委員は行政マンなんで、非常によくこちらの思いも汲んでいただいているのかなと思うのですけれども、何かご意見ございますでしょうか。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>行政マンなので、いま出ているお話は、私だったらというとな変ですけど、下の注釈の方にやっぱり丁寧に入れるかなという気はしました。</p> <p>確かに繋がりの部分が下の説明のところにはないのですが、1人ひとりをしっかりと観察するということが延長線上にあるんですね。だからそこをきっちりとそっちの方に書き切る、その方が分かりやすいかなという気はします。</p> <p>子ども理解の中に、多分その1人ひとりを観察して把握して関係性を作るというところまで入っていると思われるので。</p>

藤原委員	あと、下の注釈がざっと見て少なすぎるように思いました。
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>言葉一つとっても、このたった40分程度の議論の中でも人によって全く解釈が違うということがあったことでしたので、このめざす教職員像のところにつきましては、いただいたようなニュアンスを含めていくのですけれども、前提として、やはり見出しのメッセージはなるべくシンプルに覚えやすいというのは、原則として守っていきたいなと思っています。ここを広げると、だんだん崩れていきますので、なるべく端的には記述しつつ、いただいたような議論の中身を下のところに加えさせていただくと。</p> <p>一丸については事務局で持ち帰らせていただいて、同じ意味けれども、ニュアンスを少し異なる形にして、最終的にめざす教職員像を整理させていただくという方向で、もしよろしければ次に進めさせていただこうと思います。</p>
佐々木委員	<p>すいません。使い古された言葉で言うと、和田委員から笑われそうなのですが、昔から学校で言われている「1人ひとりの子どもが生きる集団づくり」、使い古されているけど結局そこにいつてしまうのかなと。その前に、子どもの個性が活かされるわけですから。</p> <p>だとすると、教師としては、その1人ひとりの子どもが生きるというのは活躍の活ですが、1人ひとりの子どもが生きる集団づくりというか、1人ひとりの子どもを活かす集団づくりとか、なんか結局そういう言葉が一番分かりやすいのかなと思いました。以上です。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今回あえて見出しの中に子ども理解という言葉を入れさせていただいたのは、やはり第1回、第2回の中で、とりわけ、よく各委員からいただいた単語であるということは非常に大きいのかなと思っていますし、私自身の経験が少ないせいかもしれないのですが、実はこの「子ども理解」という単語自体を、あまり聞いたことがなかったのです。</p> <p>おそらくそういう人というのは多いと思うのです。教育現場の独特の言葉かなと正直思いました。だからこそ、見出しに持ってきた方がいいのかなという意図も入ってはおります。</p> <p>どちらかという、この1人ひとりの子どもが生きる集団づくり</p>

東委員長	<p>というのは、どのワードも理解がしやすいワードになってくるので、あえてこの特徴的な意味として、子ども理解というところを使わせていただいているような意図はあるのですが、いずれにしましても、各委員からいただいた言葉も踏まえて、見出しの下の注釈の部分を充実させつつ、一丸の部分をもう一度精錬させていくというところで、この（２）めざす教職員像については、終わらせていただいて次に進めさせていただければというふうに思います。</p> <p>続いて（３）めざす学校像ですが、こちらにつきましても、事前にご意見をいただいているのですけれども、和田委員からどちらかというシンプルに、あえて、ここの特出しが必要ですかと。こちらについては総合教育会議でもあったのですけれども、この各主体ってというのが、ちょっと想像しづらいというようなご意見がございました。</p> <p>よくあるのは、家庭、地域、学校が連携してとあるのですけれども、この各主体というのは従来の家庭や地域のみならず、もっといろんな主体が関わって子どもたちを活かしていける、支えていけるほうが良いという意味で、従来の主体以外の主体もあるという意味で、あえて、こういうこれまで教育の文脈ではあまり使われてこられなかった商工会とか、キャリア教育という観点もありますけれども、あえて入れてみたというような意図ではあります。</p> <p>もし、めざす学校像について、事前いただいたのは和田委員からのみなののですけれども、和田委員も含めて、他の委員からこの学校像について、ご意見でしたり、他の観点等ございましたら、いただければと思います。</p>
和田委員	<p>私は例示があるのなら、逆に増やしたほうが良いと考えます。１つだけなので、逆にすごく目立ちちゃうなと思ったんです。だから四條畷にある団体の中でやはりこれとかこれとかね、という形にしたほうが良いのかなというふうに思いました。あるかないか、どちらかで言えばそうです。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>こちらも、教育委員さんからもあったので副委員長からいただいてもいいですか。</p>
植田副委員長	<p>総合教育会議の中で、やはりこの各主体という点に言及がありました。もともとは家庭や地域、行政ということなのですが、それ以外の主体がどういうものなのかということについて、例示をし</p>

植田副委員長	<p>たほうがいい、もう少し分かりやすい言葉はないかという指摘がありました。</p> <p>それからもう1つ、地域から信頼される学校でなければならないということが、原則的にあるかと思うので、このあたりが反映されていたらよいのではないかという、ご意見もありました。</p>
東委員長	<p>その他こちらについて何か、二見委員お願いします。</p>
二見委員	<p>この各主体というのが、確かに何かなと一瞬思います。この下の部分に家庭、学校、地域のみならず商工会等と書いているんですけど、この注釈に「各主体とは何々何々」って書いた方が分かりやすいのかなと。実際に見やすさで言えば、パッとみた際に、各主体って何かなとて思ってみると、下にちゃんと例示として書いていればわかります。これは皆で連携して子どもたちを支えるということなので、とてもいいと思いました。見てすぐに分かるようにしっかり記載されればいいのではないかと私は思います。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いろいろ第1回、第2回の未来教育会議でしたり、総合教育会議の議論を踏まえて、いろいろな観点、めざす学校像を入れたいと思いつながら、でもシンプルにしていく必要があるという中で、ギョッと各主体にまとまったってというのが、実際ここに至った理由かなと思うのですが、お示しのとおり、より明示していくことで、先ほど藤原委員からも少し補足が少ないんじゃないかということだったので、ここをもう少し充実させていくという観点が1つあるかと思いますが、そのほか観点としてございますか。</p>
佐々木委員	<p>家庭、学校、地域というこの3点セットはよく使う言葉なんですけれど、この地域というところが、広い概念でどこまでをイメージしているのかなと、例えばその商工会だって地域だというように、並べていくと性格がここから急に変わってしまう。</p> <p>例えば、フォーマルとインフォーマルとカテゴライズするんだったらフォーマルなものインフォーマルなものに分けることができるんですけども、何かこう、すごくカテゴライズがしにくい表現の仕方だなと。</p> <p>商工会というのであれば、例えば「企業」という言い方であったり、何か違う言葉がいいのでは。商工会は、特定になっちゃうので。後は、「例」を入れていくという形もあるかと思うんですけど</p>

佐々木委員	<p>ど、逆に「地域」でいいのかなとも思います。</p> <p>家庭とか学校というのは一定限定されるイメージなのですが、地域は、すごく広い概念なので、そういう3点セットで併記することではなくて、もっと地域の中にあるいろんな企業であったり、NPOであったり、様々なものを言おうとしているのかなって思うと、地域（何々）という表現になるのかなと思います。</p>
植田副委員長	<p>全く同様の意見で、この地域が広義の概念であって、いまおっしゃったように、企業、企業団体、NPO、ボランティア団体、その他任意の諸団体、そういったものを含む概念と思います。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この基本理念のところで、個性をみんなで活かすの、みんなという部分、それぞれの団体でしたり、主体者が参画して子どもを支えるんだ、活かすんだという、参画するという主体的な意識を持ってほしいという想いがあります。その場合に、地域は確かにすべてを含むのですけれど、地域だけ書くと自分たちは関係ないんじゃないかと思ってもらわないようにしたいなと思っていて、皆さんも子どもを支えるチームに加わってねというメッセージを込めていきたい。</p> <p>ですので、いま、佐々木委員もおっしゃっていただいたとおり、この下の部分でより明示していく方が、地域の部分をより噛み砕いていくっていう表現のほうが、より分かりやすいのかもしれないですね。</p>
藤原委員	<p>3ページを活かすのであれば、各主体というのを使いたいのかもしれないのですけれど、四角の枠の中が、みんなが連携して子どもを支えているとか、例えば下のリード文にも開かれた教育の観点から、家庭、学校を3ページの事業者、行政機関など、社会全体で、連携して子どもを支えていくとかっていうのは、一番行政チックな直し方かもしれないですけど。</p> <p>あと、私、この(3)のところの、下の説明文の主語がないなと思ったんですね。様々な生き方の理解は誰がするのかというのがないかなと思いました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>言葉の使われる単語をそろえていくという意味では、おっしゃるとおりかなというふうに思います。</p>

佐々木委員	<p>すいません。どうしても付け加えたいのですが、いま皆さんがおっしゃった話の中に、なんかこう、抜けているなあって思うのが、地域住民。そういう団体ではなくて、1人ひとりの地域住民も日常的に子どもの声かけであったりとか、すごく支えてくれていると思うので、ぜひ四條畷も地域住民を入れていただきたいと思います。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当に四條畷市には、毎朝、何年と、朝にごみを拾いながら子どもの見守りの活動を続けていただいている方とか、本当に素晴らしい方々がいらっしゃいますので、いまのような観点も大切かなと思います。</p>
佐々木委員	<p>もう一点質問です。めざす学校像の、いまの内容と、あとで出てきたりするんですが、基本方針3の、チーム学校の構築っていうところにちょっと関連してくるんですけども、チーム学校の概念ってというのが、ここのめざす学校像の中に含まれているエッセンスも含めた「チーム学校」っていう捉えと、それと、学校の中が先ほどのように一丸となって、みんなでシステムチックに組織的に対応していくっていうことも「チーム学校」なんです、というふうに捉えてもいいと思うんです。</p> <p>文部科学省が出しているチーム学校の概念はどっちかっていうと、(3)のめざす学校像に近いものなのかもしれないのですが、(2)のめざす教員像っていうところで、「絶対必要だよな」って思っているのは、学校組織の中でのチーム体制という部分があるからです。チーム学校という言葉の定義を、どうするのかっていうのが、(3)のところにもかぶっちゃうんですけど、そこを問題提起させていただきます。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p>
植田副委員長	<p>全く総合教育会議でも同じ質問というか、ご意見がありまして、ここにもありますように、いわゆるコミュニティスクールへ向かっていくためのチーム学校なのか、もしくは先ほどおっしゃったチームとして動くという意味合い、これら二つが混乱するかもしれません、というご意見もありました。</p>
東委員長	<p>どちらかという、この後、議論させていただきますけれども、</p>

東委員長	<p>基本方針(3)の方は、学校のなかのというようなニュアンスが強いのかなと思ってはいます。</p> <p>中原委員や白井委員から、この(3)めざす学校像について、もし、何かいまの議論を踏まえて、あればと思うのですがいかがでしょうか。大丈夫ですか。</p> <p>(意見なし)</p>
東委員長	<p>わかりました。</p> <p>では、いただいた表現の中で、基本的にはメッセージラインとしては、この形でということだとは思いますが。</p> <p>あとは言葉の使い方、基本理念の用語を活かすでしたり、読まれた方が、地域という部分が何かより分かるようにしていくこと、というところを踏まえて、最終案にさせていただけたらなというふうに思います。ありがとうございます。</p> <p>これでめざす教育像のところまで基本理念とめざす教育像についての議論を終わらせていただいて、これら基本理念等と、めざす三つの教育像を踏まえて、残りの基本方針のところに移らせていただきたいというふうに思います。</p> <p>こちらにつきましても、事前にそれぞれの意見をいただいております。</p> <p>全体の意見として、二見委員の方から、まだまだ四條畷らしさが、というところもいただいて、まずそこをいただいてもよろしいですか。</p>
二見委員	<p>全体的にいいことをたくさん書いているし、全然悪くないと思います。特に基本方針(5)の地域のおせっかいが生きる場づくりは、すごく四條畷らしくて、とてもいいなと思いました。ただ、他のところは何かどこかで聞いたような言葉が多くて、この(5)がとても四條畷らしさを感じるということ言えば、この(1)から(4)を何か四條畷らしさを含む、端的な良い文言がないものかなということ、全体的な率直な所感ですけれども、思いました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当に唸りながら、独自性も出しつつ、わかりやすさも出しつつとか思いながら、なかなか知恵を捻ったんですけど、なかなか及ばずで申し訳ないなというふうに思います。</p> <p>1点めの基本方針1の、気づく力という、与えられるのではなく</p>

東委員長	<p>て自らがこれがいいな、これやってみたいなって思うところをやっぱり育てていきたい、伸ばしていきたいというのが基本方針1になるのですけれども、こちらについては事前に和田委員からいただいております、ご意見の方をいただいてもよろしいでしょうか。</p>
和田委員	<p>私は気づく力を伸ばす教育、ここについては異論はありません。ただ、先ほど、議論したように、学校の先生達、教職員の仕事として、やはり子どもたちの繋がりをつくっていくという、観点を話させてもらったのですが、この基本方針のところ、そういった内容が全く書かれていないので、そこがちょっと気になって、子どもたちの繋がりを大事にする教育というような、何か方針を言ったほうがいいのじゃないかなという意見です。</p>
東委員長	<p>おそらくめざす子ども像の部分に、今後、認め合うというような文言が出てくる中で、それに沿った基本方針も、必要じゃないかというようなご意見かなというふうに思います。ありがとうございます。</p> <p>その他、この基本方針1の部分につきまして、ご意見であったり、追加の観点、別の観点等あればいただきたいと思うんですがいかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
東委員長	<p>おそらくこの気づく力というか、自ら主体的に何かに関心を持って取り組んでいこうっていうのは、第1回、第2回と重ねて議論してきたところなので、ここに関してはあまり違和感がないのかなと思っております。</p> <p>そのうえで、和田委員からございました、めざす子ども像のところで、自分も大切にしていって他者も大切にしていこうという観点を、増やしていくということになりましたので、確かに基本方針の中にその文言はございませんので、基本方針2のなかに、それらを踏まえた文言、方針を追加したほうがいいのじゃないかというようなご意見をいただきました。</p> <p>これについて、追加のご意見であったり、別の視点等あればいただきたいと思うのですがいかがでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>すいません。ちょっと内容というよりも外側のことで質問なんですけど、気づく力とか、(1) (2) (3) (4) (5)、ここの</p>

佐々木委員	見出しで、基本方針5、二見委員の非常に評価の高い「地域のおせ っかいが活きる場づくり」で、ここだけがなんかちょっとこうイメ ージ的に言うと、ひらがな言葉というか、やさしいわかりやすい言 葉ですよね。その前の四つの言葉がすごく固いんですよ。 ちょっとそこにコンセプトの違いを感じてしまうんです。
東委員長	おっしゃっている意味は非常によくわかります。
佐々木委員	そういう地域住民に向けてのやさしい言葉シリーズにするのか、 カチッとした言葉シリーズにするのか、ちょっとコンセプトをそろ えないと、非常にちぐはぐな感じがしまして、どこかから持ってき たものの寄せ集め的な感じがしてしまうのは私だけでしょうか。
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>お示しのとおりかなと思います。それでいきますと基本理念が かなり平易な言葉を用いております。みんなというのは、かなり平易 な言葉を使っておりますので、基本理念はこれで固めていきたいな と思うので、こちらについても、いまおっしゃっていただいたよう な、平易な言葉を用いて、おそらくこの後に議論する、個別最適化 という点についても、中原委員からすでにご意見をいただいている のですけれども、全体感の中で調整させてもらえたらな、というふ うに思います。</p> <p>和田委員からお示しいただいた他者を認め合うとか、繋がり。先 生も踏まえて、繋がりの部分というところは、もし、ご意見等なけ れば、これは追加をさせていただく形でいいのかなと思っているの ですが、よろしいでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>文言等も含めて、整理させていただければと思います。</p> <p>続けて基本方針の2になってくるのですけれども、こちらについ ても、確かに非常に固い言葉が使われていて、事前に中原委員から いただいておりますので、ご意見よろしいでしょうか。</p>
中原委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>私が意見させていただいたのは、個別最適化という文言について です。最近よく使われている言葉で、教育改革に置けるキーワード</p>

<p>中原委員</p>	<p>の一つですが、今の教育改革と同じような印象を与えるのはすごくもったいないなと感じました。</p> <p>もともとこの未来教育会議の趣旨としても、30年先を見据えて、新しい公教育のフラッグシップになる教育大綱の策定があったと思います。</p> <p>一つ提案としては、個別最適化の捉え方を、ICTによる子どもに応じた難易度のドリル学習ではなく、子ども一人ひとりに学びの主導権があり、学びの選択肢が多様な環境の整備と認識できる文言や文章がいいと思います。子どもが自己選択、自己決定しているプロセスが学習課程では重要だと感じています。与えられたものでやってみようではなく、様々な環境が整備されているなかで、個々が自身の学び方に気づき、自己の成長に気づき、自己の行動を決定している。自己評価、自己修正、自己表現するプロセスを学習の中で自身が回せていけるような環境ということが、自己調整学習力を高める上で重要だなと考えていますのでそういう意図が伝わる内容を組み込まれてはと思い、ご意見をさせていただきました。以上です。</p>
<p>東委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>いま、事前にいただいているところでいくと、選択できる教育環境というふうに記載をいただいているのですけれど、多分より平易な言葉で使うと、「自ら選べる学びの環境」みたいなニュアンスになるのかなというふうに思うのですけれど、これまでの考え方からすると、自ら選べる教育環境というのは、なかなか刺激的な文言かなと思うのですけれど、教育委員さんからもありましたね。</p>
<p>植田副委員長</p>	<p>総合教育会議でもやはりこの点は同じ意見がございまして、まず個別最適化というのは、ずばり経済産業省の未来の教室の中で用いられています。よって、手垢がついているという指摘、それから、この先々にあるのが学びのSTEAM化や、GIGAスクール構想に象徴されるような、新しいICTの学習基盤づくりなどが基となって、子どもが気づく力を伸ばす教育ができるのではないかと。この様な意見もありました。先ほど中原委員もおっしゃったように、まず環境整備というところは一つのキーワードになるかなと思います。</p> <p>あと私の考え方ですが、この個別最適化がすでに言い古されているというようになっていきますけども、実はテクノロジーがもっと進めば、人間が様々な個性をしっかりと気づき、確認していくというプロセスが、かなり自動化されていく。そうすると先生、その他、</p>

植田副委員長	<p>地域も含めた教える人が、習熟度やスキルの差異に関係なく、本当にその子に最適なものが提供できるようになる。これが、まさに10年先を見越した学びの革新ではないかと思います。だからこそ個別最適化、私は個人的には結構気に入っています。またカタカナを使いますが、パーソナライゼーションですからね、これは。</p> <p>また言いかえればカスタマイゼーションです。これは間違いなくテクノロジーと一体不可分で新しい教育の姿になっていくと思います。はい、大変気に入っております。</p>
東委員長	<p>おそらく中原委員がおっしゃっていただいたのは個別最適化自体が悪いというよりは、個別最適化を与えられるんじゃないかというニュアンス、この表現だと与えられた個別最適化のようにも捉えることができるけれども、どちらかというところ、自分でこんなことやっていきたいというのが環境整備によって、自ら、自分の好きなことに取り組める個別最適化というニュアンスの方が、おそらく近いのですが、言葉の解釈問題と同じで、これを見たときに、おそらく違う側面で捉えられる可能性があるのも、難しいなというふうには感じておりますが、他の委員からこの部分について追加でご意見あればお願いいたします。</p>
佐々木委員	<p>いま、この不安な社会の中で多分このICTを使った教育がさらに進む、大学なんかでもWeb授業が決定したりとかしているの、進むかなと思うのですけれども、それだけじゃなくて逆にそこを進めながら、補完していかなきゃいけないというところが、やっぱり人間的感覚の部分になってくるのかなと思うのです。ICTなどの教育環境というところを整備しつつ、先ほどの大事なところ、要はそれがゴールじゃなくて、それによって、1人ひとりの子どものオーダーメイドの教育が実現していくという状況をおっしゃっているんですよね。</p> <p>そのためには、どこかのCMじゃないんですけど、1人ひとりの子どものやる気スイッチは別のところにあるので、そこがちゃんと押せるようになっていく意味合いなんですよね。それをやっぱりこの個別最適化された教育っていうことですのですべてが語れるかどうかというところちょっと難しいなという感じはしています。</p> <p>それとその説明文の中に、ICTなどの教育環境を整備し、何々何々ってもうちょっと三行ぐらいの説明が、必要になってくるのかなと思います。</p>

東委員長	ありがとうございます。白井委員、お願いします。
白井委員	<p>子ども理解という言葉が、そんなに知られていないということで、ハッとしたんですけど、確かにとっと思って。例えばその個別最適化にしてもチーム学校にしても、教育業界にいる我々からしたらもう手垢がついた言葉だけど、まだめざしている段階ですね。全然実現すらしていないし、そういう意味ではあんまりこだわる必要はないのかなという気もしたりします。</p> <p>ただ、やっぱりお母さんたちから見て、例えば個別最適化とかチーム学校って言われて、分からないというところがあるので、そういう意味でさっきおっしゃっていた、例えば「1人ひとりが選ぶことができる教育」とかっていうほうが非常に分かりやすいのかなと。</p> <p>ただそれを言われた時にお母さんたちすごい期待しますから、よっぽど覚悟を持って、市としては書くということになるのかなと思います。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当にこの教育大綱の3ページの基本理念の下のイラストといますか、イメージにもありますとおり、全部がICTというよりは本当に様々なことを、自分を取り組みたいなと思っていることに取り組む子どもたちに育ててほしいという思いが、根本にはあります。</p> <p>そうしたなか、いま、経済産業省のというようなお言葉もあったのですが、やっぱりこれからいろんな学びが大切になっていくなかで、藤原委員からも、おそらくキャリア教育みたいな観点も、少し触れかかってくるかなと思うので、何かご意見等あればいただきたいなと思います。</p>
藤原委員	<p>この個別論点じゃないんですけど、最終的にやっぱり立派なというか、社会人として自立していくための教育というところをもって、すべてのことが成り立っていくんだらうなということがあります。それを踏まえて個別最適化というワードが本当に1人ひとりの能力とか個性に適した教育があったらいいかなと思いますけれど、どの言葉がいいかなというのは分からないのですが、皆さんがおっしゃるところは、もっともだなっていうふうに思いました。</p>
東委員長	ありがとうございます。

<p>東委員長</p>	<p>いまいただいた観点からいきますと、それぞれの児童生徒に即した学びの場ということは、各委員とも共通理解にはあるけれども、言葉自体が、より保護者でしたり、初めてこれを見た方にも分かるような形というのが望ましいですし、既に他で使われているイメージがかぶってこないほうが良いというような様々なご意見をいただきました。</p> <p>いま、どの単語が本当に良いのかを議論し始めると、ずっと長くなってしまいますので、我々も本当に見ていただいたらわかるとおり、なるべくこう短くといいますか、非常にシンプル化すること、伝わりやすいかなと思った結果、もしかしたら難しくなったり、漢字を使うと短くなりますのでそういうことも出てきてしまっているのです、短くした結果伝わりにくくなったらそれは元も子もごさいませんので、いまいただいたようなご意見も踏まえて最終的には事務局で調整させていただきたいと思います。</p> <p>ただ趣旨としては、このような趣旨でさせていただきたいなと思います。ありがとうございます。</p> <p>これはこの程度にさせていただいて、次に基本方針の3。こちらもすでに、いろいろなご意見をいただいているのですが、改めてさせていただきたいなと思います。</p> <p>和田委員からよろしいでしょうか。</p>
<p>和田委員</p>	<p>私は下の文章の方にちょっと引っかかったんですね、働き方改革という言葉に。というのは、まず働き方改革という概念、言葉はいっぱい使われていますけど、じゃあ一体何かというところが、人によって全然違う言葉なので、勤務時間ということと言われる方もあるだろうし、職場環境ということもあるだろうし、そこをもう少し定義付けするとか、分かりやすい違う言葉にしたほうが良いかなというふうに思ったのです。</p> <p>特に、教職員がと主語になっているので、教職員が取り組めることって一体何なのかというと、勤務時間じゃないでしょうと、もし働き方改革をするなら行政か、というようなことも思い浮かんで、だから私はこの働き方改革っていうところに、違う言葉にしようと思って、働きやすい職場づくりに取り組みますという言葉にさせてもらったのです。</p> <p>それならば、先ほど佐々木委員がおっしゃったような、教職員が、お互い支え合う環境とかも含まれてくるので、そういう言葉に置き換えたらどうかということでの提案です。</p>

東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>そうするとハード面のみならず、ソフト面の部分も含まれてくるのかなと思います。ありがとうございます。</p> <p>こちらも中原委員からいただいておりますのでよろしいでしょうか。</p>
中原委員	<p>はい、私自身、このチームという言葉から発想したのは、コミュニティスクールを、イメージしたので回答をさせていただいています。このチームという文言の意図を、「チームとしての学校」と明確に伝えられると良いなと思います。</p> <p>先ほど、白井委員がおっしゃられていましたが、メッセージを出す、それなりの覚悟を持たなければいけないと思いますが、前衛的な教育大綱をめざし、新たな学びの共同体としてのメッセージが与えられたらなと考えて、今回ご意見をさせていただきます。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>こちらも総合教育会議でチームとしての学校というイメージという意見がありましたね。</p>
植田副委員長	<p>少し重複しますが、先ほど申し上げたとおり、総合教育会議において、コミュニティスクールの観点と、そして教員としてのチームングという、この二つの意味合い、これが混乱しないようにという意見がありました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>これは、おそらく先ほどのめざす教職員像の一丸というワードを、どうしていくかに非常に影響を受けると言いますか、そこにそろえていくような、イメージに近づいてくるので、なかなか議論しづらいなというふうには思っております。</p>
藤原委員	<p>どちらかという質問なのですが、チーム一丸となって頑張るためにやらないといけないのは、働き方改革なのかなと思いました。働き方改革をしたら、先生たちも皆一生懸命それができるのかと思ひまして、もっと他のこともしなければいけないんじゃないかと、今更ですけど思いました。</p> <p>適切な評価制度とかでは分かりにくいですが、そういったものもないと、単に働き方改革をするだけでは、チーム一丸の言葉を選ぶとしても、チーム一丸はできないのじゃないかなと思いました。</p>

東委員長	<p>おそらくこれはお示しいただいており、働き方改革が非常に広義のものと狭義のものがある、その評価制度すらも、働き方改革の一環だと思う人もいれば、そうじゃないという、単純に残業時間がどうかとか、休めるかどうかという人から、生産性の向上とか、いろいろある概念なので、より根本的にチーム学校に対して、本当に何をすべきかという、せっかくの基本方針なのに、ぼやけてしまっているというのをお示しのとおりかなと思います。</p>
佐々木委員	<p>このチーム学校という言葉を一度捨てて、本当は必要なのは、私の個人的な意見ですけど、学校がやっぱり人に依存している状況がずっと続いているがために、異動等で、学校が崩れていくという状況がずっとありますので、少なくとも、働きやすい職場を、異動によっても崩させないためには、先ほど教育長がおっしゃっている学校のシステムづくりってところが不可欠になってくるのかなというふうに思うのです。</p> <p>それこそ1人ひとりの子どもや1人ひとりの教職員を活かすためには、人に依存しないシステムが必要になってくると思うので、例えば、学校システムの構築、より良い教育環境というところをめざしているわけですね。大人にとっても子どもにとっても、より良い学校環境が必要になってくるので、そのためには、学校システムが整備されることがどうしても不可欠になってくるのかなと。</p> <p>説明ばかり並べて申し訳ないのですが、チーム学校のとらえ方が揺れるのであれば、チーム学校ではない表現として、私は学校システムという言葉を使ってもいいかなと思いました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>おそらく前回でもいただきましたが、いわゆる属人化ですね。ある先生が異動した結果、そこが、崩れてくる。そうならないようにシステム化をしていくという意味だと思うのですが、実は働き方改革というのは属人化の解消をめざすのがかなり大きな意図でもあるので、ニュアンスとしては含まれてはいるのですが、ここからはそうは読み取れないというようなことなのかと。</p> <p>誰がそこにも属人化されずに、システムティックにできるようになるという意味は、実は働き方改革には非常に意図としては含まれてはいるのですが、確かに、チーム学校から働き方改革でそこまで読み取れるかという、なかなか難しいのかなと思います。</p>
二見委員	<p>このチームの学校は、文科省が言っているようなことということ</p>

二見委員

と、ちょっと読み違えやすいついていうところもあるのですが、文科省が言っているのは、教職員全体、外部の力も借りて、子どものためにチームとなってやりましょうということだから、それに近いものかなと理解していました。ただ、ここに組織としてというふうにあるので、私が日頃いつも思っていることなのですが、学校システムということは私もこれまでたくさん考えてきましたが、やっぱり最後は人なんだなというところに戻る感じで…申し訳ないのですが、私はシステム化とか学校をどうすれば学校組織が機能的なのかということはずっと考えてきて、そのシステムを作ればうまくいくと思う反面、結局は、やっぱり人だということに私は戻ったんですね。

ただ、できる人に任せれば良いというのではなくて、人を育てるような組織をちゃんと作っていくようなシステムが作れればと思っています。子どもに向けてのことだけでなく、教職員も育てていく、例えばできる先生もいれば、まだまだ若かったり、経験年数低くて、できないところがあっても、その組織に入れば、みんながサポートし合って成長していけるという、なんかそういうような教職員の組織があればいいなど。システムを作れば、大丈夫かというところじゃないんですよ。それはやっぱりそれをしようと思う人だったり、その土台を持っているその人の資質だったりということが不可欠なんですね。

だから属人化しないというところ、それについてはすごく賛成なのですが、その人しかできないではなくて、誰がやってもある程度できる、四條畷に来れば、教職員も成長できるんだと。発達していけるんだと。それは、結局は子どもたちにとってもいい形で返せると思うんですね。

他の対人援助職の施設とかだと、どうしてもストレスフルで、対人関係が悪くなって、それがもろに影響を与えて、利用者にも悪い影響を与えるということは、いろいろな研究で言われていますし、学校としても先生が疲れていたり、できないとかしんどいということが、やっぱり子ども達に影響しないわけがないので、それでもお仕事の中で一生懸命やられているなら、教職員も、教師として成長できるというような、そういう組織であるならば、職員も力を発揮できて、なお且つそれで子どもたちに対してこう還元できるというようなことが、ちょっとうまい文言はいま思い浮かばないのですが、考え方としてあるといいなど、そういうふうに、日頃現場にいて思っています。

佐々木委員	<p>実際、私も現場にいて思っているのはやっぱり学校システムなんです。どういうシステムかという、1人の先生が1人で抱え込んで1人で悩むということをやめましょうって言っても、やっぱり勇気のいることなんですよ。</p> <p>だから、学校の組織のシステムとして、1人で抱え込まないで気になる子がいたら、ちゃんとこの組織のシステムのここに出しましょうという流れがあると、1人で悩んで、出そうかな、出さないでおこうかなという判断ではなくて、もう自分のクラスの子のことで気づいたらここに出します、ここでみんなで考えますっていうようなそのシステムなんです。</p> <p>だから、そのシステムは1人ひとりの教職員の抱え込みを防ぎ、その結果、1人ひとりの子どもの気づきが早期に可能になり、1人ひとりの子どもに対して、教師がみんなで考えていけるという内容のシステムなんです。それはそういう流れの中で、今後若い先生たちが増えてくると、ベテランの先生たちの考え方を、いろいろと聞くという場面も保証されますから、そういう意味で、若い先生たちも育つし、ベテランの先生は若い先生たちの感性にまた触発されて、いろいろ学ぶところもあるのかなという、そういう内容の学校システムが必要かなと、そう思いました。</p>
二見委員	<p>全く同じ意見です。しかしながら、それができない現状があるので、なんでかなということで、どちらかという、そのシステムが必要だということを理解して取り組めるように、成長して育っている先生方を多数できたらいいなという思いです。</p>
東委員長	<p>おそらくね、いま聞かしていただいて同じことを言っているんですよ。システムというのは実は手段で、おっしゃっていることはおそらく、子どもたちが生き生きしようと思ったら、先生たちも生き生きしていないと駄目ですよ、ということをどうすべきかという話をされていて、それが常に抱え込んでいるものを出せるような場であるかもしれないし、ゴールは同じ話をされていて、その道のりの話をされているのかなというふうに聞いていて思いました。</p> <p>第1回も第2回も、まず先生たちが前向きに取り組めないと、子どもたちが生き生きするわけがないよねという議論は、おそらくこれまで重ねてきたと思います。</p> <p>そのニュアンスを我々としては、いま、チーム学校とまとめたのですけれど、なかなかこのチーム学校からはそのニュアンスが伝わ</p>

東委員長	りづらいといえますか、そういう状況になっているのかなと思います。
植田副委員長	<p>言い換えますとね、学校のマネジメントシステムだと思います。だからこそ、人材のスキルセットの定義から評価、その育成の仕組み、それが最終的にどのような先生を作り上げて、それが子どもたちにどう影響するかという、そういうトータルマネジメントシステムかなと思っています。ちょっとこれはまた別の機会に。</p>
東委員長	<p>本当にそのとおりで、あえて言及は避けたのですが、それこそ校長先生のリーダーシップとかそういう世界感に、場づくりですから入ってくるのですが、なかなかこの教育大綱の横並びでいくと、急に具体的な話になってきて、教育大綱があって、その下に基本的な計画を立てていくつもりなので、あくまでゴール地点をめざして、進め方については、もしかしたら共有できる場かもしれないし、校長先生等のマネジメント力かもしれないし、今後の計画のところを書いていけたらいいかなと思うのですが、やはり基本方針3のところは、もっと先生がこんな状態でいてほしいという表現があったほうがいいのかもしいかなと思いますね。</p>
白井委員	<p>ここで言われていることからみ出すのかもしれないし、行政側から打ち出しづらい部分かもしれないけれども、やっぱりそのチーム学校というより、私、中原委員がおっしゃった共同体の機能を備えた場の方が、しっくりくるなと思ったのはなぜかという、先生と例えば保護者、生徒との関係性と言う意味でも、やっぱり先生になる人たちが不足していて、なかなか優秀な人たちばかりがくるわけじゃないと、やはり先生たちを育てるのも、保護者でもあり、生徒でもありというところも、本当はないと。</p> <p>やっぱり聖職者ではないし、全員が完璧なわけでもないのも、もちろんその先生方の支え合いというのもありますけれども、教育の受け手である側も、先生を支えるんだという感覚というの、ないと無理だと思うのです。</p> <p>よく、うちのスクールなんかでも、例えば先生とかスタッフに対するクレームというのが、保護者とか、あるいは生徒からあったときに、一人ひとりが完璧じゃないし、みんなすごい個性がある人たちだから、できることとできないことがある。だからチームで支えているんですよという話をすると、割とやわらかくなったりするんですね。</p>

白井委員	<p>その先生の課題とかも、もうざっくばらんにお話をしたりする。ですから、この人が合わない場合はこの人が対応しますからということで、それこそ有機的に対応しないと難しいというところで、共同体といっても、その生徒、保護者も含めて、という意味で先生方を育てて支えていくというような打ち出しができるの良いのかなと思いました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いままでの議論を総括いたしますと、二見委員がおっしゃっていただいた、最終的にやっぱり人だよと戻ってきたところも、先生それぞれの個性が最終的には重要になってくるということと、佐々木委員がおっしゃっていただいた、でもやっぱりシステムで支えていかないとねということも、全部同じだと思うんですね。</p> <p>いまおっしゃっていただいた共同体、このニュアンスを踏まえつつ、あくまでもチームというのは、その中の手段の一つであって、システム化も重要ですし、先生それぞれが個性を発揮して子どもに対峙できる環境づくりも重要だしという観点なのかなと。</p> <p>それをシンプルなワードにするというのは、非常に困難な作業ではあるのですが、趣旨としてはいまのような形なので、本来であればこんな単語はどうかなと、パッと言えたらいいんですけど、パッととはなかなか思いつかないので、こちらは宿題にさせていただいたうえで、いまのようなそれぞれのニュアンスが入ってる単語で、保護者の皆さんにも分かりやすいような形を模索させていただければというふうに思います。これは持ち帰り事項とさせていただければと思います。</p> <p>ただニュアンスは非常によくわかりました。我々も、完璧ではないのでパッと出ないかもしれないのですが、そこはまた、見ていただければと思います。ありがとうございます。</p> <p>このチーム学校の構築の部分で、別の観点とか、新たな視点、他の意見等あればと思うのですが、もしなければ基本方針4に進ませていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>では、基本方針4の教育と福祉の連携という部分でございます。こちらにつきましても事前にいただいております。まずは和田委員の方からお願いいたします。</p>
東委員長	

和田委員	<p>内容に対して異論があるとかではないです。書き方についてのことだけでして、支援が必要な子どもなど、家庭関係も複雑かつ多様化しています、という現状の定義づけをされているので、ちょっとやはり他と文章と書き方をそろえたらどうかなという提案で、自分なりに元行政マンとして、言葉のつながりを少し変えたというそれだけです。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。中原委員からもお願いしていいですか。</p>
中原委員	<p>はい、先ほど委員長がシンプルな言葉でまとめるのがすごく難しいとおっしゃっている中で、言うのがすごく心苦しいのですが、教育と福祉というところをつなげたメッセージはすごく重要だと思います。この委員会に参加させていただいて、より深まった考えなので、教育と福祉を包括した言葉がいいなという願いを込めてのメッセージでした。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。 教育と福祉と並べた時点で、分けて考えているのではないかと うご指摘ですね、おそらく。</p>
白井委員	<p>私のなかで、特に今回の委員会で皆様のご意見をさせていただく うえで、やはりこの福祉というところの捉え方、家庭関係も含め て、それが教育に密接なんだということを痛感いたしました、何か これを1つのメッセージを伝える手段がないのかなと悶々としてい ました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。 こちらについては種々ご意見、まだまだあるかなと思うので、委 員からいただきたいと思うのですけれども、本当に我々も過去の この資料6を見ていただいたら分かるのですが、基本方針4の ところについて、種々ご議論いただくなかで、シンプルにまとめた結 果、非常にシンプルになったというような経過がありますが、思い が伝わらないと意味がございませんので、何かこう、こういう観 点、というご意見があればお願いできますか。</p>
白井委員	<p>ありがとうございます。 中原委員も書いていらっしゃる通り、これを独立して一つのメ ッセージとしていただいたということは、やっぱりすごく重要だと</p>

白井委員	<p>思っていますし、教育委員会と市長部局が連携してということをはっきり書いていただいたということもすごく重要だと思います。</p> <p>教育と福祉の連携ということに関して、多分この最初の一文というのは、やっぱり分かりやすくというか、この教育と福祉というと、玄人の言葉になっちゃうと思うので、ここは本文の中に入れていただいて、これも言い古された言葉になっちゃいますけども、SDGsそのままですけどね、誰も取りこぼさない、だれひとり取り残さない教育というようなことを、四條畷らしく表現していただくということなのかなと思ったりしまして、本当にすごく重要なメッセージだと思います。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かにこの基本方針4だけは、他よりも行政っぽいといえますか、コンパクトになってしまっているのは事実かなと思います。</p> <p>その他ございますか。</p>
佐々木委員	<p>はい。端的に言うと、この言葉は変えてほしい。とっても嫌いな言葉なのです。というのも、教育と福祉の連携って一体何をさしているのかわからないです。</p> <p>教育現場と福祉現場を言っているのか。もっと大きい概念で言っているのか。だけど人間の生活は教育と福祉だけで出来上がっているものじゃないですから、そういう意味で、中原さんが、もっと包括的な言葉でっておっしゃっているのかなと、とらえたのですけれども、この言葉が出てくる段階で、一瞬にして四條畷らしさが消えます。これはちょっとやめていただいて、おそらくイメージ的には、切れめのない、支え合う四條畷市の力を言いたいわけですよね。</p> <p>ということは、縦軸横軸の中で本当に落とさないってことですよね、子ども一人ひとりの子どもを、決して落とさないで、持続可能な支援を実現するという意味合いでおっしゃっているのかと思うので、それをあえてこの言葉で表現するというのは、私は逆効果かなというふうに思います。</p> <p>包括的な言葉が、なかなかこうスポッと単語で出てきにくい部分もあるのですけれども、いま皆さんがイメージしている言葉を、もうちょっとこう、造語でもいいので、作っていただくべきかなというふうに思うので、もう一度繰り返しますがこの言葉はやめてほしいと思います。</p>

東委員長	何か逆にありますか。
佐々木委員	<p>そうですね。何か出てくる言葉が自分の頭の中では、自分で言っているながら、おせっかいというようなやわらかい言葉とか、みんなとかっていう、やわらかい言葉よりも、どうしても熟語的な言葉が、頭に出てきてしまうので、それはやっぱりその下の、おせっかいが活きるってところに繋がっていくような、言葉に変えて、いきたいわけですね。</p> <p>言ってみたら住民も、それから関係機関も行政もみんなひっくるめて、みんなで切れめのないおせっかいをかけ合いたいわけですね。ちょっとそういうことが出てきたら他の委員さんにも聞いてみたいと思うのですけれども。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ここについては、先ほどのチーム学校もそうなのですけれども、基本方針1とかは、目標というか、なっしてほしい像を書いているんですね、気づく力を持ってほしいな、伸ばしてほしいなど。ただ、基本方針3と4に関しては手段が書いてあるんです。ありがたい像じゃなくて、手法を記載しているんですね。</p> <p>学校がチームになるとか、連携すべきだという、確かにそのニュアンスの違いがあって、より3、4は行政風になっているというのは事実なので、いまおっしゃっていただいた、例えば切れめがないとか、あるいは誰1人取りこぼさないとか、まさにそういう趣旨ですので、行政では切れめのないっていうのは、子どもの文脈でよく使う単語ですので、そのあたりも、一つキーワードになってくるのかなと思います。</p>
佐々木委員	<p>体制としては、みんなで支え合う体制ということですね。みんなという言葉を使うのであれば、みんなで支え合う体制づくりとか、そちらのほうが言っているニュアンスには近いのかなと思います。</p>
東委員長	<p>おそらくその支える主体側はね、基本方針3や5なのです。先生たちとか、地域の方々とかも含めて、おそらく基本方針4の場合は、白井委員おっしゃっていただいたように、子どもたち側目線に立って、とりこぼされていないとかって、どちらかというところのニュアンスが、教育と福祉の連携の文脈では少し近いのかなと。</p> <p>なるべく基本方針3では、学校の先生たちが、子どもたちをみんな</p>

東委員長	<p>なで支えることができるというのと、基本方針5では、さらに学校のみならず、地域の方々も含めてというようなニュアンスなので、基本方針4は、より子ども側に立った理想状態というところを入れる方が良いかな、というふうに思いました。</p> <p>なかなか造語も新しい単語というのは、我々行政マンにはハードルがちょっと高いのですけれども、何かこう、いま出ているのが、切れ目のないとかという単語であったり、誰1人とりこぼさない。だからこそ教育と福祉が連携するんだっていうことだと思うのですが、こういうニュアンスはどうか、こういう言い回しはどうかとか、もし、ご知見があれば、いただきたいなと思うのですが、ございますでしょうか。</p>
藤原委員	<p>委員長おっしゃるように、基本方針のところは、まだ状態を示すのと手段を示すのと、まだこの整理がいるかなというのが一点、それを整理されたら大分変わると思います。</p> <p>ただ、この教育と福祉の連携は、学校現場にいる時の引きこもりと、卒業したあとの引きこもりというのは、やっぱり所管が違って、実際、個人情報保護とかの関係もあって、連携が極めて難しい部分じゃないですか。なので、文言はさっておき、この課題意識というのは、この後の具体的な計画の中に入ってくるのかもしれないんですけど、それは是非やっていただきたいなというふうに思います。</p> <p>何か、教育と福祉の連携って、確かに手垢がついた言葉なのですが、でもそれは本当にできているかと言ったら、できていないところが多いよねというのもあるので、そういう意味では、あえて書くというのはポジティブに賛成と思いました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当にお示しのとおり、やはり市長部局も年齢によって所管がどんどん変わっていきつたりますので、非常に難しいといひますか、多部署にわたる取り組みにはなつてきますので、現実的に個人情報の観点とかから、一番大事なのですが、難しさは本当にあるかなと思つています。</p> <p>いままで委員の皆さんからお示しいただいた観点からいくと、状態を表す単語に変えていった方がいいのかなと思ひますので、その形に変えさせていひだひて、下の部分で、教育と福祉の連携というのは、手段として記載させていひだひ方向性でいったん修正をさせていひだひて、奇をてらつたワードにはならないと思ひますので</p>

東委員長	<p>ども、なるべく委員の皆さんにおっしゃっていただいたニュアンスに近いワードを選ばしてもらえればと思います。</p> <p>基本方針4について、他に別の観点で付け加えておくことがあればと思います。</p>
二見委員	<p>おっしゃっていた、学校に行っている間の不登校から、卒業した後のひきこもりについては、いま、四條畷市では連携というか継続をやっているので、個人情報難しさもあるのですが、そのために在学中から、ひきこもり支援の人たちにも入ってもらって、連携をする形でやろうと、十分ではないけれども頑張るやろうと、すでに取り組んでおられます。</p> <p>学校にいる間も、保育園から幼小中までの人達とも、福祉現場としっかり連携を取りたいですし、出た後も、その意味では、切れ目のないということはぴったりなんです、在学中でも学校だけが対応するのではなく、福祉の皆さんと一緒に連携し協働しながらやりたいので、そういう意味で、私もその教育と福祉の連携というのは、もうちょっと他の言葉があればいいと思うけれど、すごく重要なことだし、バンと出してもらったら、きっと現場としてはやりやすいかなと思います。使い古された言葉といえど、とても画期的というか、分かってはいるけれどできていない部分があるので、同じ意見だと思うんですけども、もっといい言葉があればそれにこしたことはないかなと思います。</p>
東委員長	<p>わかりました。ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見の趣旨を踏まえて、最終的な文言にさせていただければと思います。</p> <p>最後、時間の関係もあるのですが、最後の基本方針5の部分。こちらについては、2名の委員からいただいておまして、もしかしたら方向性が同じかもしれないのですが、それぞれいただいておきます。</p> <p>まず、二見委員からいいですか。</p>
二見委員	<p>これは、前回、委員長が四條畷市はどうだったというところのご意見で、地域がすごくいい意味でおせっかいで、口を出してもらうことで繋がれているということをおっしゃっていたと思います。私はすごく四條畷らしさが出ていて、おせっかいという言葉がどうとらえられるかは置いておいて、他のものよりは、私のなかでは、すごい評価が高いんですけど、四條畷らしいというか今後いろんな概</p>

二見委員	<p>念を抽出する際に、綺麗な言葉でまとめたものはスマートだけでも、そのらしさが、削ぎ落とされるということってよくあると思うんです。この基本方針5は、あまり削ぎ落されず、四條畷らしい基本方針だなというふうに思ったので、私としては、いいなと思いました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。和田委員お願いします。</p>
和田委員	<p>私はおせっかいという言葉はいいんですけどね。見出しに出すかという感じがしたんですね。すごく強いインパクトがあるので、行政文書の中でこの言葉を「パンッ」と見出しに出すかという思いがしたので、下には生かしつつ、思いやりという言葉なり、やわらかい言葉にしたらどうかなという提案です。</p> <p>あとは下の文言についていろいろ書かしてもらいました。主語が、学校がとなっていて、環境づくりに取り組みますということでまとめられているので、主語述語がちょっとばらけているなと思ったので、意見を書かせていただきました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>和田委員はいろいろと、行政側のことも気づかっていたということかなと思っていて、これは事前に事務局も含めて私と教育長の中でも相当議論しまして、おせっかいという言葉は両方の意味を持っていますから、人によっては悪いものだというイメージもあれば、温かみのある言葉でもあって、だからこそ、オリジナリティが出るということにはなるのですけれども、これは非常に悩みました。</p> <p>今日たくさん意見がいただけるかなと思い、あえて残した方が、議論として膨らむかなと思ったので、残したままにさせていただいているのですが、両委員おっしゃるとおりかなと、本当に思います。</p> <p>こちらについて、ご意見であったり、別の角度から、さらに補足的があればいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
佐々木委員	<p>ここの文言を議論するということは、先ほどおっしゃったその基本方針（1）（2）（3）（4）（5）の言葉の持っていくかたの統一を図っていく方向で考えたらいいのでしょうか。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p>

東委員長	<p>基本的には先ほど、佐々木委員おっしゃっていただいたとおり、全体としてはより平易なとか、入ってきやすい単語に統一していく方針自体は変える気はあまりなくて、基本方針5の言葉を難しくしていくとは現段階ではあまり考えてはいないです。</p>
佐々木委員	<p>基本方針（1）（2）がめざす教育ですよね。基本方針の（3）（4）は手段、方法で、そのままでいくわけですね。最終的に。</p>
東委員長	<p>そちらについても、すべて「状態」に持っていったらなどは思っています。より平易な言葉で、状態を表す方針に統一していこうかなと思います。</p> <p>そうすると基本方針5も状態を表す言葉に。場づくりでなくて、おせっかいが生きる場ということですね。</p>
佐々木委員	<p>先ほど委員長おっしゃっていただおせっかいってというのは、ありがた迷惑も含む意味であると考え、そのありがた迷惑の場合には、活きないですね。</p> <p>だから、個別化された一人ひとりの子どもに生きるおせっかいは、やっぱりその子どものニーズに合っていないきやいけないっていう意味合いになってくるわけですね。それだとしたら、おせっかいが生きるの、十分説明ができていのかというふうに思っております。</p> <p>あとは、最初の話に戻っちゃうのですが、個性をみんな活かすまちという平易な口語体みたいな言葉に合わせていくとなってくると、それには一番地域のおせっかいという言葉が、呼応してくるかなと。口語体みたいにしていくことのほうが難しいかもしれないけれど、四條畷市民には分かりやすいのかもしれないというふうに思いました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>やはりいろんな意味があるので、この説明文のおせっかいの上にダブルクォーテーションマークをつけさせていただいており、良い意味の方でとらえてねという想いを込めて、このマークを付けております。</p> <p>実際、基本方針5については、先ほど中原委員からもありましたけれども社会人として、将来的にいろいろな大人がいるんだよということも知ってほしいなという想いがここに込められています。</p> <p>例えば四條畷市の小学校は卒業式の時に、それぞれ卒業証書を授</p>

東委員長	<p>与される前に、将来の夢は何々ですと言ってから受け取ります。私も毎回、何が何割ぐらいかなと数えているのですが、いくら You Tuberとかが多くなってきているとはいえ、やはり多いのはサッカー選手とか、パティシエとか、野球選手とかが多いです。</p> <p>そのあたりの大きな部分というのは変わっていない。やはりそれは、触れ合うというか、目にする職業が主にそれなので、どうしてもそれになって、実際、地域にはいろいろなことをされている方がいらっしゃるし、その子の個性に合う働き方が、たくさんあるかもしれない。そういうものを、小さい頃から、出会えたら良いなという想いも、ここには入っているのですが、その観点で、やはり藤原委員のお立場から、ここでこういう観点も入れたほうが良いのではというのがあればお願いしたいなと思います。</p>
藤原委員	<p>私、このタイトルいいなと思ったんです。四條畷らしくて。入れるとしたら、おせっかいということのなかに、思いやりのあるおせっかい、責任感のあるおせっかい、社会人としてのというのがあると思うので、説明文に足していただければ、それでいいのかなと思いました。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>やはり表題が難しいところですね。この後、事務局から説明があるので、パブリックコメントという形で実施し、市民の皆さんからもご意見をいただくのですが、おそらくここは両方、ご意見があるかなと、いまから思っています。</p> <p>ただ、なぜこの言葉を使ったのかというところを、我々としても、想いを込めて使いたい言葉ではあるので、説明していけたらなと思っているのですが、和田委員おっしゃっていただいたとおり、説明文に使うという選択肢もあるのかなと、私としても思っています。</p>
和田委員	<p>ここは、委員長で決めていただけたらいいと思うので、この言葉がいやだってことではないです。すごくこの前議論して、四條畷の良さなんだということでおっしゃっておられたので、いいと思うのです。ただ、これを見出しに書くというのが、かなり勇気がいるなという思いで書かせていただいたので、ここは最後、委員長が決めていただけたらいいかと思います。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p>

東委員長	<p>こちらについては、この説明のところに、誤解がないようにとい いますか、丁寧にすることで一定カバーできるのかなとは思いま すので、可能であれば状態を表す語には変えていきますが、この言葉 は残させていただきたいなと思っております。</p> <p>なにか、この方針5について中原委員ございますか。</p>
中原委員	<p>私自身は二見委員が言われたように、この言葉に対して、ポジテ ィブに反応したほうでありまして、何か温かみを感じるとらえ方を していました。そのため、最後は市のほうで、あらためてこの文言 について決めていただいたらいいなと思います。</p>
東委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、この方向性でということであれば、下の説明文のところは もう少し細かくさせていただいたうえで、表題については、この方 向性でさせてもらえればなと思います。</p> <p>まもなく6時というところで、基本方針5まで議論をさせていた だきました。</p> <p>全体を通じて、基本理念はこのままでさせていただき、めざす3 つの教育像と、それぞれの基本方針についていただいたところを修 正させていただき、最終的にご確認いただくような流れで、考えさ せていただけたらと思います。</p> <p>全体を通じて、何かまだ別の観点であったり、ご意見であった り、ございましたら、いただきたいなと思うのですがいかがでしょ うか。</p> <p>(意見なし)</p>
東委員長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>もし、全体を通じてなければ、今日いただいた議論をベースに、 前に進めさせていただけたらということで、この次第の1について は終わらせていただきます。</p> <p>最後次第2のその他、についてですが、何かございますでしょ うか。</p> <p>(意見なし)</p>
東委員長	<p>それでは、事務局から今後の進め方についてお願いします。</p>

<p>総合政策部長兼魅力創造室長</p>	<p>今後の進め方についてご説明をさせていただきます。本日もたくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>今後なのですけれども、本日いただきましたご意見を修正させていただきますまして、教育大綱素案から素案にさせていただきますと考えてございます。</p> <p>次に、令和2年4月に予定をしております総合教育会議で教育大綱素案を教育委員会の皆様とご議論のうえ、教育大綱原案とさせていただきますまして、5月から広く市民の方々に意見公募を行う予定にさせていただきます。</p> <p>その意見公募の結果を受けまして、7月を目途に最終の未来教育会議を開催させていただきますまして、その後、総合教育会議の意見交換を経て、最終的に教育大綱として策定いたしたいと考えてございます。</p> <p>また、7月に予定します令和2年度の第1回の未来教育会議につきましては、別途日程の調整を、改めて事務局よりご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>説明は以上です。</p>
<p>東委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今日で基本的なベースは固めさせていただきました。次回は、教育委員さんからいただいた意見も踏まえ、また、パブリックコメント等も含めた形で、最後、確認という形をとらせていただき、教育大綱の策定に向けて進めさせていただけたらと思います。</p> <p>もし、そのほかに何かご意見ご質問等がなければ、終了させていただきますと思いますがよろしいでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
<p>東委員長</p>	<p>本当に密度の濃いといいますか、非常に多岐にわたる観点から様々なご意見をいただけたことに、心から感謝申し上げます。</p> <p>これを踏まえてより良い教育大綱にしていければと思います。</p> <p>それでは、これをもちまして令和元年度第3回未来教育会議を閉会いたします。</p> <p>本日は皆様ありがとうございました。</p>